

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203089		
法人名	医療法人和香会		
事業所名	グループホーム和らぎ歓び【和らぎ】		
所在地	倉敷市福田町古新田1051-2		
自己評価作成日	平成25年12月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JizyosyoCd=3370203089-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	倉敷市阿知1丁目7-2-612-2		
訪問調査日	平成26年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して10年半が経ち、「入居者さまが主役で共に生活すること」を念頭に、気持ちに寄り添えるケアを目指しています。顔なじみのスタッフと生活を少しでも長く安心して送って頂けるように、母体が医療法人という特色も活かし、医療と連携し、介護職員、看護師で支えています。また、ご家族さまと共に入居者さまを支えていけるように、畑の管理をご家族さまが中心になってして下さい、ご家族参加型の行事も年間を通して7回設けています。気軽に立ち寄れる「家」になれるように、職員からご家族さまへ積極的に広報誌や電話、面会時に声をかけています。ホーム内では、なじみのある季節行事をしたり、併設のデイサービスの利用者さまと一緒に行事を楽しんでいます。犬も飼っており、散歩にも出掛けています。ボランティアの方や実習生、運営推進会議の参加者も年々増えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設から10年半が経ち、地域からの認知度が高まり、交流の機会も増えている。職場体験の中学生や話相手のボランティア等の来訪者は、利用者に良い刺激となっている。また、家族との信頼関係を大事にし、連絡や報告を頻繁に行い、家族みんなで楽しめる行事を実施している。運営推進会議では、腰痛予防対策講座など、役立つ内容の提供により、家族の参加率を高めている。この会議の場で、配食サービス導入の是非が家族と活発に議論され、試食なども実施した結果、合意を得てサービスが開始された。このような一つ一つの取り組みが実を結び、周囲からは「ここはいいですね」「ここに入居したい」といった声が届いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、ユニットごと年度の目標を立てケアの統一を図っている。今年は、「利用者さまとかかわる時間を大切にする」を目標に、業務の見直しや利用者さまの楽しみ作りを行っている。	「お客さまの満足度の向上を」「より良質のサービス提供を」「優しさをもって」「互いに尊重を」「喜びにあふれ」という内容の理念を掲げている。これを基にユニットごとに、日々のケアにつなげることを意識した年度目標を立て、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普通の生活が送れるように地域資源を使うことを意識している。買い物や理美容店を利用したり、地域のゴミステーションへのゴミ捨てや当番、溝掃除の参加、周辺への散歩などを行い、日々交流を心掛けている。	中学生が職場体験に、家族がボランティアで来る。敷地内のデイサービスに幼稚園時が来た時は、利用者と一緒に出向いた。神輿も来る。普段から犬の散歩時に挨拶を交わしたり、駐車場を地域に融通したりして、周囲から「良い事業所」という評価を受けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学校・介護学校からの実習生受け入れや中学生からのボランティア・職場体験の場として提供している。いきいきポイント活用のボランティアさまもあり、また外出を通して、地域の方にも理解をしてもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者に助言を頂く中で、近隣の道路にカーブミラーの設置ができる予定。参加者からの要望もあり、リハビリ職による腰痛予防対策講座も行うことができた。参加者も増え、活発な意見交換が行えている。	運営推進会議への家族の参加が少なかったが、土曜日開催や楽しめる行事を掛け合わせることで、参加者が増えた。配食サービスの導入に関しては活発な議論がなされ、家族と事業所との合意が形成された。役立つテーマが提供されると、会議を楽しみにしている家族もいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	倉敷市の行う研修に参加している。また、事故の報告や、実地指導などよりアドバイスを頂いている。	市が開催する研修に参加し、その報告書を市に提出している。また、地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加し、様々な情報や意見を交換する中で、会議の場で家族への腰痛指導が実現した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないという信念で玄関の施錠についても、夜間帯のみで、日中は自由に入り・面会ができるようにしている。内部研修や毎月のカンファレンスで、身体拘束について、周知徹底するよう努めている。	身体拘束は見受けられない。年1回の内部研修を行うと共に、接遇委員会の活動や職員間での注意により、言葉による拘束も減っている。例えば「ちょっと待って」の代わりに、およその待ち時間を言うようにした。玄関等の施錠はなく、職員が気をつけて見守っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部の研修で、高齢者虐待防止について理解を深め、徹底するように努めている。GH内でも、入居者への声かけや対応で気をつけることを掲示し、職員同士が注意しあえるように心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、成年後見制度が必要なケースも考えられるため、外部研修にて学びました。それを基に、内部研修を行い、各職員の制度への理解を深めるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時前に、必ず施設見学とサービスの内容、ユニットの状況、利用料などの説明をし、実際の契約時にも、重ねて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽にご要望を頂けるように、面会時などに、職員から積極的に利用者のご様子をお伝えしている。また、計画書説明時に、改めて、管理者より、ご要望を頂けるように声かけをさせてもらい、運営に活かしている。	家族の来訪時には、利用者と一緒にいる写真を撮る。職員はその写真を見て、家族の顔を覚えている。利用者にとっては、家族が来たことを思い出してもらいきっかけとなっている。こうして利用者、家族、職員間の距離を縮めることで、意見を言いやすくなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、各職員の意見を尊重し、良いと思う事は、積極的に取り入れている。また、スタッフミーティングを月に2回行い、意見や提案を自由に行えるようにしている。個別面談を年に1回設け、相談にのっている。	職員から意見が出やすい雰囲気づくりに努め、出た意見に対していいと思った意見は、配食サービスの導入という大きな変更から、夜勤がタオル交換するといった小さなことまで、どんどん採り入れている。また管理者は、研修情報等を積極的に職員に紹介している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者に不自由なく、各職員が働きやすいように職員の勤務時間の変更をH25年1月より行った。管理職の評価だけでなく、各職員同士が相互相対評価を行っている。(賞与時)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の内部研修、各職員が年に1回以上外部研修参加を目標に、各職員の力量や内容に応じた、外部研修に派遣している。また、個別面談時に、各職員に年間の個人目標を立ててもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に属し、研修に職員を派遣したり、グループホーム分科会にも参加している。当GHの見学も、制限なく受け入れている。近隣のGHの運営推進会議の参加をお互いに行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当所は不安なことが多いため、手厚い対応ができるように声かけを積極的に行っている。信頼関係の構築を目指し、ご本人の要望や不安なことに対して聞き入れ、記録し、分析し対策を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、十分な相談をしている。また、入居前の情報について、必要な機関へ情報提供をしている。利用者のご様子についても、入居後、数日以内に報告させてもらい、ご要望に沿えるようにケアを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の状況をみながら、適切なサービスを提供していけるように努めている。必要に応じて、他施設やデイサービスなどの紹介を行っている。管理者が中心に、相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者は共に生活する者同士であることを念頭に置きながら、日々暮らしている。家事動作など、可能な利用者には、生活での役割を担ってもらい、「ありがとう」が行き交う生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の広報誌で、日々の生活について、定期的に報告、連絡を行わせて頂いている。また、判断に困る事項では、ご本人の気持ちにそって、ご家族に相談をしたり、家族参加型の行事を年に7回企画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会をして頂き、近所の方や親せきの方も面会に来てもらっている。大切な人を少しでも忘れないように日々の声かけで取り入れている。必要に応じて、ご本人よりご家族へ電話を掛けてもらうこともある。	餅つきや神楽など、子どもも楽しめる行事で家族に来てもらったり、家族と一緒に写った写真を利用者に見せて、利用者が家族を忘れないように努めている。馴染みの理美容店等に行きたい人は家族に連れて行ってもらう。また、近所の方が面会に来たり、手紙が届く時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が円滑にいくように職員が間に入っている。相性が良い方と近い席になれるように、席の配慮や位置を思案している。利用者の状況により、職員が個別対応をし、関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、定期的に見舞いも兼ねて、訪問するようにしている。また、ご家族からの相談にも随時対応するようにしている。ご家族からのボランティアを有り難く受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動より利用者さまの思いをくみとり、本人の希望や思いを出来る限り応えられるように、日々の記録や申し送りで情報収集し、ケアカンファレンスやユニット会議で話し合いに努めている。	「買物に行きたい」「お好み焼きが食べたい」等の叶えられる思いには応えている。楽しみを得て、離床時間が長くなった利用者もいる。入居時に積極的に本人の情報を仕入れると共に、来訪時に家族が何気なく言ったことを申し送りで周知し、意向に添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査票を基に、利用者さまとの会話や面会時のご家族さまとの会話で生活歴の把握に努めている。聞いた情報を書類や申し送りノートに書き込み、スタッフ全員で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さま一人ひとりに目を向け、普段と少しでも変化があれば、職員間で情報を共有している。場合によって、バイタル測定を行ったり、記録、申し送りノートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族さまから希望を聞き、目標設定をしている。また、職員間で、ケアカンファレンスを行い、モニタリングし、課題を挙げて、目標やサービス内容を決定している。	利用者ごとに担当職員を決め、担当職員でチームを作り、アセスメント等を行なっている。事業所からの手紙等を通じて、家族も担当職員がだれかを認識し、本人や家族の意向がケアプランに反映しやすい。さらに栄養士等からの指導内容も計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を細かく生活記録や、申し送りノートに記入し、情報の共有をしている。実践や介護計画の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの利用者について、より良い生活を目指し、ユニット会議などで、十分検討し、必要な福祉用具や医療・看護・リハビリ支援を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふくだの里として、隣のデイサービスへの行事などで交流を行っている。また、近隣のスーパーへの買い物や理美容店を利用し、地域資源を使うことを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を基本に、協力医療機関の主治医と連携を図っている。受診支援も、業務と位置づけ必要に応じて、話し合いの場を設けたり、眼科や神経内科などの専門医への受診の付き添いも行っている。	家族が受診に付き添う場合は、事前、事後の連絡をきちんと取っている。本人の状態をしっかりと伝えるのが大切な精神科等は、職員が付き添う。夜間の様子を詳細に記録して、医師に見てもらうこともある。受診支援が手厚いとの家族の声がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員配置より、日々の気づきを迅速に、報告・相談を行っている。適切な受診が行えるように早めに対応したり、今後の重度化していく場合においても看護師より、ご家族の意向をお聞きしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供や入院後の連絡調整を行っている。入院中に、退院時支援について、カンファレンスがあれば参加している。入院された場合でも、条件に応じて原則1か月の居室確保を保証している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の当事業所の方針を説明している。また、終末期に近くなっている利用者ご家族さまへは、改めて説明を行い、万が一が起きた場合に備えて頂いている。納得した最期を迎えられるように主治医へも随時意向を報告している。	2年前の訪問調査以降、3人を看取った。重度化の際の対応方針を入居時に説明し、同意書を取っている。最近の看取りでは、初めて経験する職員の精神面を管理者らが支え、良い最期となったと家族から感謝された。主治医も看取りに協力的である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については毎年内部研修で、AEDの使用方法と一次救命処置について学んでいる。また、マニュアルを基本に各自適切な対応ができるように、ユニット会議などで伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を実施し、避難経路、方法について、周知徹底している。消防署の方にも避難訓練をみてもらい、アドバイスを頂いた。また、近隣住民へも、万が一の場合の協力をお願いしている。	火災だけでなく、風水害のマニュアルを作成している。雪が積もる時には予め買物を多めに行う等の対応をしている。	停電時の備えと食料備蓄を期待したい。また、マニュアルに書かれている行動が、避難訓練時だけでなく、定期的に確認する等して、いざというときにどの職員もできるよう、期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者さまに応じた声かけを行っている。利用者さまの世界観を大切に尊厳を持って対応している。接遇委員会による掲示物で、日々声かけや対応に気をつけている。	内部研修でプライバシーに配慮した声かけを研修し、特にトイレ誘導は「手を洗いに行こう」「窓を閉めに行こう」という具合に徹底している。入居時に本人、家族に尋ねて、希望する呼び方にしているが、ニックネームで呼ぶのは、人間関係ができてからにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物など、ご本人が選択できることはお聞きするようにしている。また、家事動作や手作業についても、無理強いせず、ご本人の希望で行えるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者さまのペースで、起床時間や食事の時間を配慮している。また、職員からの提案で、行事や外出支援、散歩の参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれをご家族に聞いたり、協力してもらいながら、支援している。個別に外出も兼ねて、散髪支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ではないが、季節に応じた献立を各職員が考え、買い物をし、調理し工夫をしている。利用者さまはできる範囲で、食材の下ごしらえや盛り付けなどのお手伝いを職員と一緒にやっている。	2種類のテーブルと3種類の椅子があり、利用者間の人間関係や各人の体型を考慮して、ゆっくり食事できる席を選んでいる。昼食時は音楽を流し、職員も一緒に同じものを食べ、和やかな雰囲気である。朝食はパンかご飯かを希望により決めている。	職員の負担軽減から配食サービスを導入して、まだ間もない。家族に説明し、試食してもらい、了承を得て実施しているが、今後も家族、職員、事業者の話し合いを重ね、利用者により良い食事が提供できるよう、期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量を把握し、必要に応じて、水分量の把握を行っている。無理強いせず、水分補給をこまめに、提供を行っている。また、食事量が少ない方には、高カロリー飲料や高カロリー食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に口腔ケアを行っている。また、必要な方には、毎食後、支援している。希望者には、訪問歯科が毎週月曜日に来ているので、歯科居宅療養管理指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレを備え、できる限りトイレにて排泄ができるように必要な方には2人介助をしている。個々の訴えやサインを大切に、必要に応じて声かけをし、トイレ誘導を行っている。	日中はできる限りトイレで排泄できるように努めている。排泄記録を取り、参考にしているが、定時誘導をするわけではなく、あくまで各人の様子を見ながら対応している。夜間は、ゆっくり眠ることに重きを置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ掃除にて、排便の有無を把握している。便秘気味の方には、水分量を多めにとってもらい、牛乳、ヨーグルトなどを提供している。また、下剤のコントロールを行い、便秘・下痢の予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後から、入浴を設けており、1日2～4名の入浴で、週に2～3回を目安に可能な限り提供している。ご本人の入りたい気持ちを尊重し、支援している。	仲の良い利用者同士2人で入浴したり、入浴剤を入れたり、時にはゆず湯にして、楽しく、くつろげる時間となるよう、努めている。夕食後の入浴にも対応している。汗かきの人には入浴回数を多めにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意志を尊重しながら、リビングで過ごして頂いたり、自室で休んで頂いている。夜間は安心して休んで頂けるように、声かけ、環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の薬剤師より、アドバイスを頂いており、気軽に相談ができるように連携が図れている。また、薬表のファイルを作成しており、薬の効用や副作用を各職員が随時目にできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、歌の提供や散歩、食事作りや洗濯物たたみ、掃除、犬の散歩、紙ちぎり、お盆ふきなど家事動作を中心にしてもらっている。季節行事は、レクリエーション委員会を中心に毎月企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や夏祭りなどの季節行事に加え、日常の日光浴、散歩、買物、散髪など、外の空気を少しでも吸う機会を持てるように考えている。春と秋には、少人数単位で外食・外出に行くことができた。	事業所のすぐ前の大きな公園では催し物も多く、天候が良ければ、散歩がてらに出かけている。家族の協力により車椅子の利用者同士で観光を楽しんだこともある。しかし、利用者の重度化、高齢化により、以前より外出回数は減っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、トラブル防止のため、個々の利用者さまは持っておられず、個々の買い物については、事業所が立て替えることにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からのご家族への連絡時に、電話を代わることがある方もおられる。手紙のやり取りは行っていないが、GHへ直接手紙が届いた際は、利用者さまへ届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さまの世代に応じた和風造りのホームであり、照明は間接照明、暖色系の光に統一している。廊下の各所に飾り棚を配置して、観葉植物や利用者さまの作品やなじみのある遊び道具を置いている。	ユニットごとに「長屋」「昭和・大正の民家」というコンセプトに即した雰囲気が出ている。ソファの配置や座席の工夫で各々がゆったり暮らせるようにしている。美化委員会が年間計画に沿って、エアコンや車いすを定期的に清掃している。	開設から10年が経ち、経年変化により、ウッドデッキのねじが飛び出していたり、床のささくれが目立つ所がある。必要な修繕を施し、危ない箇所がなくなるよう、期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で一人の時間を過ごしたり、掘りごたつのある和室や廊下に縁台などを配置して、自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のものは全て持ち込みをお願いし、今まで使っていた家具などを用い、その人らしい部屋作りをご家族と一緒に考え、お願いしている。	居室はすべて畳の間に、車椅子には絨毯を敷く等して対応している。テレビ、ロッキングチェア、仏壇などを持ち込んだり、ティーカップを飾ったりして、各々思い思いの部屋となっている。職員は清掃や消毒など、衛生管理に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやイス、手すりの位置、キッチンの高さなど、高齢者に使いやすい低めの物を用意している。また、お部屋のタンスやベッドの配置などご本人の動線に配慮して配置するようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203089		
法人名	医療法人和香会		
事業所名	グループホーム和らぎ歓び【歓び】		
所在地	倉敷市福田町古新田1051-2		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JizyosyoCd=3370203089-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	倉敷市阿知1丁目7-2-612-2		
訪問調査日	平成26年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム和らぎ歓びは開設して10年半が経ちました。歓びユニットは第二の我が家として、入居者さま同士や、職員と顔馴染みの関係作りから、信頼され安心した生活を送って頂けるような関わりを目指しています。実習生の方や見学に来られた方から、入居者さまも職員も明るく楽しそうで、将来的に自分の親を任せたいと言われます。ハード面も木や畳の温もりがあり、家庭的な雰囲気でも人気があります。母体が医療法人という特色も活かし、病院、訪問看護ステーション、介護職員、看護師と連携し支えています。また、ご家族さまと共に入居者さまを支えていけるように、現在、畑の管理をご家族さまが中心になって下さったり、ご家族参加の行事も計画しています。また、ホーム内では、なじみのある季節行事をしたり、時には、併設のデイサービスの利用者さまと一緒に行事を楽しんでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、ユニットごと年度の目標を立てスタッフのケア統一を図るように努めている。今年 は、①責任感を持ちケアや業務を行う②心地よい生活が送れるようにより一人ひとりを見ていく		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流については、普通の生活が送れるように地域資源を使うことを意識している。買い物やなじみの理美容店を利用したり、地域のゴミステーションへのゴミ捨てや当番、周辺への散歩などを行い、日々交流を心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	倉敷市内の看護学校の実習受け入れ、近隣の中学生からのボランティア・職場体験の場として提供している。また、外出することで、地域の方にも認知症高齢者の理解をしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加者に助言を頂く中で、台風での風水害についての意見交換を行い、マニュアル作成ができた。また、参加者も増え、活発な意見交換が行えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	倉敷市の行う研修に積極的に参加している。また、事故の報告や指導相談、運営推進会議にも一度参加してもらい、アドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないという信念で運営している。玄関の施錠についても、夜間帯のみで、日中は自由に出入り・面会ができるようにしている。内部研修や毎月のカンファレンスなどで、身体拘束について、周知徹底するように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部の研修で、高齢者虐待防止について理解を深め、徹底するように努めている。GH内でも、入居者への声掛けや対応で気を付ける事を掲示し、職員同士が注意しあえるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、成年後見制度が必要なケースも考えられるため、外部の研修にて学びました。今後は、各職員の制度への理解が必要になってくると考えられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時前に、必ず施設見学とサービスの内容、ユニットの状況、利用料などの説明をさせてもらっています。実際の契約時にも、重ねて説明をさせてもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に要望を頂けるように、面会時などに、職員から積極的に利用者のご様子をお伝えしている。また、計画書説明時に、改めて、管理者より、ご要望を頂けるように声を掛けさせてもらい、運営に活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、各職員の意見を尊重し、良いと思う事は、積極的に取り入れている。また、スタッフミーティングを月に1回行い、意見や提案を自由に行えるようにしている。ほかに、個別面談を年に1回設け、相談にのっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務帯について、利用者に不自由なく、各職員が働きやすいように工夫をしている。管理職の評価だけでなく、各職員同士が相互相対評価を行っている。(賞与時)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の内部研修、各職員が年に1回以上外部研修参加を目標に、各職員の力量や内容に応じた、外部研修に派遣している。また、個別面談時に、各職員に個人目標を立ててもらっている。(21・目標計画達成)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流の機会として、日本認知症グループホーム協会に所属し、研修に職員を派遣している。また、グループホーム分科会にも積極的に参加している。当GHの見学も、制限なく受け入れている。近隣のグループホームの運営推進会議の参加をお互いに行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当所は不安なことが多いため、手厚い対応ができるように声掛けを積極的に行っている。信頼関係の構築は人間関係の基本と考え、認知症の有無に関わらず、関係作りを心掛けている。また、家族との連絡も密に取り、安心して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、十分な相談をしている。また、入居前の情報について、必要な機関へ情報提供をしている。利用者のご様子についても、入居後、数日以内に報告させてもらい、ご要望に沿えるようにケアを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の状況をみながら、適切なサービスを提供していけるように努めている。必要に応じて、医療・看護・リハビリスタッフなどより、アドバイスをもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者は生活者であることを念頭に置きながら、日々暮らしている。家事動作など、可能な利用者には、生活での役割を担ってもらい、「ありがとう」が行き交う生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の広報誌で、日々の生活について、定期的に報告、連絡を行わせて頂いています。また、判断に困る事項では、ご本人の気持ちにそって、ご家族に相談をしたり、家族参加型の行事を年に7回企画した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会をして頂き、大切な人を少しでも忘れないように写真を部屋に飾ったり、日々の声掛けで積極的に取り入れている。なじみの場所にも、理美容を含め、外出時などに行けるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介役となり、利用者同士の関わりが持てるように支援している。ときにお互いの成り行きを見守ることも大切に行っている。またリビングの席の配置を考えトラブルの回避をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、定期的に見舞いも兼ねて、訪問するようにしている。また、ご家族からの相談にも随時対応するようにしている。又、ご家族からのボランティアを有り難く受け入れ、行事にはお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の訴えや、生活の様子を記録に記入し、なるべくご本人らしい生活を送ってもらえるように把握に努めている。日々の申し送りノートやユニット会議、ケアカンファレンスにて、随時検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査票にある生活歴を重視している。入居後に知り得た生活歴についても、各職員が情報共有に努め、ケアに活かしている。また、入居前の情報について、必要な機関へ情報提供をしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りノートを活用し、現状把握に各職員が努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望を重視した介護計画を心掛けています。目標設定をし、日々のケアでも、意識していけるように、介護計画書をよりわかりやすいものにと工夫している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子をこまめに生活記録や申し送りノートに記入し、情報の共有に努めている。実践や介護計画の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの利用者について、より良い生活を目指し、ユニット会議などで、十分検討し、必要な福祉用具や医療・看護・リハビリ支援を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふくだの里として、隣のデイサービスへの行事参加などを行っている。また、近隣のスーパーへの買い物や美容院を利用し、地域資源を使うことを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を基本に、協力医療機関や従前からの主治医と連携を図っています。受診支援も、業務と位置づけし必要に応じて、医師とご家族の話し合いの場を設けたり、受診への付き添いをしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置により、日々の気づきを迅速に、報告・相談を行っている。適切な受診が行えるように早めに対応したり、今後の重度化していく場合においても、看護師よりご家族の意向をお聞きしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供や入院後の連絡調整を行っている。入院された場合でも、条件に応じて居室確保を保証している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の当事業所の方針を説明している。また、終末期に近くなられている利用者ご家族へは、改めて説明を行い、万が一が起きた場合に備えて頂いている。納得した最期が迎えられるように主治医へも随時意向を報告している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、11月の内部研修で、AEDの使用方法和、一次救命処置について学んだ。また、マニュアルを基本に適切な対応ができるように、ユニット会議などで伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を実施し、避難経路、方法について、周知徹底している。消防署の方にも避難訓練を視てもらいアドバイスを頂いた。また、近隣住民へも、万が一の場合の協力をお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者さまに応じた声掛けを行っている。利用者さまの世界観を大切に尊厳を持って対応している。排泄面に対しても、プライバシーに配慮した声掛けができるように支援している。接遇委員会による掲示物で日々気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時好みの衣服を選んでもらったり、おやつや飲み物など、ご本人が選択できることはお聞きするようにしている。また、家事動作についても、無理強いせず、ご本人の希望で行えるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者さまのペースで、起床時間や食事の時間を配慮している。また、職員からの提案で、行事や外出支援の参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や化粧品を一緒に買いに行ったり、その人らしい身だしなみやおしゃれをご家族に聞いたり、協力してもらいながら、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた献立を各職員が考え、工夫している。利用者さまはできる範囲で、食器洗いや盛り付けなどのお手伝いを職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量や水分量の把握を行っている。無理強いせず、水分補給をこまめに提供しているが、摂取困難な方にはゼリーやトロみをつけ補っている。また、食事量が少ない方は、高カロリー食やプリンを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ずお茶を飲み、残渣物の無い様に確認をしている。主に夕食後に口腔ケアを行っているが、必要な方には毎食後支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレを備え、できる限りトイレにて排泄ができるように支援をしている。必要な方には、2人介助をし、トイレ誘導を行っています。個々のペースに合わせてトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を把握し、便秘の予防に努めている。便秘気味の方には、野菜ジュースや牛乳、ヨーグルトなどを提供し、便秘の予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、希望者には、入りたい時間帯でお声掛けをしている。毎日午後から、入浴日を設けており、週に2～3回を目安に入浴を提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意志を尊重しながら、リビングで過ごし、頂いたり、自室で休んで頂いている。夜間は安心して休んで頂けるように、声かけ、環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の薬剤師より、アドバイスを頂いており、気軽に相談ができるように連携が図れている。また、薬表のファイルを作成しており、薬の効用や副作用を各職員が随時目にできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、食器洗いや洗濯物たたみ、掃除、犬のお世話、ぬり絵、生け花などを行っている。また、季節行事についても、レクリエーション委員会を中心に毎月1回以上を目標に企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はとても大切だと考えている。花見や夏祭りなどの季節行事や日常の散歩、買物、散髪など、外の空気を少しでも感じる機会を持てるように考えている。今後も、ご家族やボランティアの協力を得ながら、少人数単位で積極的に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、トラブル防止のため、個々の利用者さまは持っておられず、個々の買い物については、事業所が立て替えることにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員からのご家族への連絡時に、電話を代わったり、ご本人からの希望でご家族へ電話することもある。手紙のやり取りは行っていないが、GHへ直接手紙が届いた際は、利用者さまへ届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の照明は間接照明、暖色系の光に統一している。廊下の各所に飾り棚を配置して、観葉植物や利用者さまの作品やなじみのある遊び道具を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で一人の時間を過ごしたり、掘りごたつのある和室や廊下に縁台やソファなどを配置して、自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のものは全て持ち込みをお願いし、今まで使っていた家具などを用い、その人らしい部屋作りをご家族と一緒に考え、お願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやイス、手すりの位置、キッチンの高さなど、高齢者に使いやすい低めの物を用意している。また、お部屋のタンスやベッドの配置などご本人の動線に配慮して配置するようにしている。		